

集会アピール(案)

1941年12月8日、日本は太平洋戦争に突入し、多くのアジア・太平洋諸国民に侵略と植民地支配という許しがたい犠牲を強いてきました。また、沖縄本島では、米軍による凄惨な地上戦において12万余の沖縄住民が犠牲となりました。今年は沖縄が米軍事占領下から日本に「復帰」して40年を迎えましたが、今もなお過重な基地負担の犠牲を強いられています。

10万1千人が結集した「オスプレイ配備反対沖縄県民集会」で沖縄国際大学生は「沖縄の青い空は米国や日本政府のものではなく、県民のもの。このきれいな空に軍用機を飛ばすのは許さない」と訴えました。しかし、こうした県民の願いを無視し、米海兵隊は、欠陥機「オスプレイ」を普天間基地へ強行配備しました。日米両政府は、「沖縄以外での訓練を日米間で検討する」ことで合意しており、北海道がその対象となる可能性もあります。また、政府は、「名護市辺野古への新基地建設」をすすめるため、年内にも沖縄県に「埋め立て申請」をするとしています。米兵による凶悪な犯罪・事故も後を絶ちません。

一方、東京電力福島原発事故は、日本だけではなく世界中を放射性物質で汚染し、福島県民に言い表すことのできない苦しみを与え、多大な犠牲を強いています。

政府は9月、2030年代に原発ゼロとすることを決定しました。しかし、その一方で、安全性を確認した原発を「再稼働」させ、「核燃料サイクル」も継続する、さらには、「大間原発」建設工事再開を容認するなど、矛盾したものとなっています。

国策に翻弄され、日本のわずか0.6%の国土に74%の米軍基地が押しつけられて「命」がないがしろにされている沖縄の現実、これは、同じく国策として過疎地に交付金によって押しつけられ、事故によって見えない放射能に「命」が脅かされる福島の現実と重なります。

12月16日投開票の衆院選においては、天皇元首化や国防軍の保持などの改憲を打ち出している自民党、さらには「自主憲法制定」を公約とした「日本維新の会」など、結果次第では、「集団的自衛権の行使を可能とする憲法解釈の変更」のみならず、9条そのものの改悪の流れが加速することが懸念されます。

私たちは、このような日本を再び「戦争する国」にしようとする危険な流れを何としても阻止しなければなりません。本集会を契機に、世界の人々、とりわけ近隣アジアの諸国の人々と連帯し、「武力で平和はつくれない!」との訴えを一層広め、引き続き、反戦・平和・脱原発の運動を強力に展開していくことを確認しあい、集会アピールとします。

2012年12月8日

武力で平和はつくれない! 12.8北海道集会